【学会報告】

# コロナ禍における渡航者外来受診小児の動向

坂本　昌彦[1)]、天満　雄一[1)]

1）佐久総合病院国際保健医療科

## 要　旨

目的

当院では2015年に海外渡航者外来を開設した。長野県内で輸入ワクチンを扱い、かつ小児にも対応する唯一の渡航者外来として県内外の小児渡航者のサポートを行ってきた。コロナ禍で海外渡航者は激減し、当外来受診者も大きく変化した。今回われわれはコロナ禍前後における受診小児の変化についてまとめたため報告する。

方法と結果

対象は2020年1月から2023年7月に当科外来を受診した16歳以下の小児で、受診者の属性（年齢、性別、居住地）、渡航先、渡航目的、渡航期間、接種ワクチン、英文書類の有無について、診療録に基づいて後方視的に検討した。2020年は延べ32名（初診16名）、2021年は延べ34名（同19名）、2022年は延べ52名（同21名）、2023年は37名（延べ18名）の受診者があった。3年間の受診者74名の概要は、佐久市29名、佐久以外の東信地域30名、東信以外の県内10名、県外1名、その他3名であった。渡航先は米国が14名ともっとも多く、次いでタイ(13名)、インドネシア(7名)、中国(6名)の順であった。渡航期間は59名（80%）が1年以上であった。渡航目的は家族に帯同が63名（85%）と最多で、留学が8名（11%）であった。受診のきっかけはインターネットが33名(45%)と最多で、ついで会社の紹介が11名（15%）であった。接種ワクチンは狂犬病が79本ともっとも多く、次いでA型肝炎(58本)、B型肝炎（33本)、腸チフス(16本)の順であった。新型コロナの出国前PCR検査目的の受診は8名であった。

考察

コロナ禍で海外との往来が激減する中、海外渡航者外来受診者も全体としてはやや減少したが、小児の受診者は継続的にみられていた。理由として、受診目的の多くが「家族の仕事に帯同」や「留学目的」であったことが考えられる。当地域はアジアに工場を出している中小企業が多く、コロナ禍であっても海外工場は稼働が必要であり、継続的に社員を派遣する必要があるためと考えられる。今後は海外との往来の回復とともに、観光目的の受診者も増加し渡航先も多様化すると考えられる。

まとめ

コロナ禍における海外渡航者外来の受診者について分析し、渡航者外来が果たすべきニーズについて考察、報告する。

キーワード：コロナパンデミック、海外渡航、ワクチン、トラベルクリニック



連絡先：〒384-0301 連絡先住所　長野県佐久市臼田197
坂本昌彦
FAX：0267－82－3131
E-mail：masahikoskmt77@yahoo.co.jp